

転重軽受法門

文永八年一〇月五日 五〇歳

修利槃特すりほんどくと申すは兄弟二人なり。一人もありしかば、修利槃特修利槃特と申すなり。各々三人は又かくのごとし。一人も来たらせ給へば三人と存じ候なり。

涅槃經ねはんに転重軽受てんじゅうきょうじゆと申す法門あり。先業の重き今生けいぜいにつきずして、未来みらいに地獄じごくの苦を受くべきが、今生けいぜいにかゝる重苦じゆうこに値あひ候へば、地獄じごくの苦しみくるしみぱつきへて、死しに候へば人・天・三乗・一乗の益えきをうる事ことの候。不軽菩薩ふきやうぼさつの悪口罵詈あくぐちばりやくせられ、杖木瓦礫がりやくをかほるも、ゆへなきにはあらず。過去かこの誹謗ひぼう正法のゆへかとみへて「其罪畢已ございひつち」と説かれて候は、不軽菩薩ふきやうぼさつの難がたに値あひゆへに、過去かこの罪つみの滅めつするかとみへはんべり。又付法藏ふほうぞうの二十五人は仏ぶつをのぞきたてまつりては、皆仏みなぶつのかねて記きしをき給へる権者けんしやなり。其の中に第十四の提婆菩薩だいばぼさつは外道がいだうにころされ、第二十五師子尊者ししそんじやだんみりは檀弥栗王だんみりに頸くびを刎はねられ、其の外ほか仏陀密多ぶつだみっただ・竜樹菩薩りゅうじゆなんども多くの難がたにあへり。又難なくして、王法おうほふに御帰依ごきいいみじくて、法ほふをひろめたる人も候。これは世よに悪国あくこく・善国ぜんこく有り、法ほふに摂受せつじゆ・折伏せつぷくあるゆへかとみへはんべる。正像せいざう猶なほかくのごとし。中国ちゆうこく又またしかなり。これは辺土へんちなり。末法まつぽうの始めなり。かゝる事ことあるべしとは、先まづにをもひさだめぬ。期ごをこそまち候まちひつれ。この上かみの法門こは、いにしえこ申しをき候まちひき、めづらしからず。

円教えんけうの六即ろくじつの位ゐに観行即くわんぎやうじつと申すは「行ずる所言ぎやうふ所しよの如ごとく、言ことふ所しよ行ずる所しよの如ごとし」云云。理即りじつ・名字なみざうの人ひとは円人えんじんなれども、言ことのみありて真まことなる事ことかたし。例せば外典がいてんの三墳さんぶん・五典ごてん等は読よみむ人ひとかかずをしらず。かれがごとくに世よををさめふれままう事こと、千万せんまんが一つもかたし。されば世よのをささまる事ことも又かたし。法華經ほふけは紙付かみつきに音ねをあげてよめども、彼の經文きやうもんのごとくふれままう事ことかたたく候か。譬喩品へいぎよひんに云く「經きやうもんを讀誦じよじし書持しよぢすること有あらん者しやを見て、輕賤きやうせん憎嫉ぞうぢして結恨けつこんを懷いだかん」と。法師品ほふしに云く「如來にょらいの現在げんざいすら猶なほ怨嫉おんぢ多おほし、況いはんや滅度めつたうの後のちをや」と。勸持品くわんぢひんに云く「刀杖たうじやうを加かへ乃至なほ数々すうさう擯出ひんしゆせられん」と。安樂行品あんらくぎやうひんに云く「一切いっけつ世間せけん、怨おん多おほくして信しんじ難がたし」と。此等こゝろは經文きやうもんには候へども、何なんの世よにかゝるべしともしられず。過去かこの不軽菩薩ふきやうぼさつ・覺徳比丘かくとくひしゆなんどこそ、身みにあたりてよみままいらせて候まちひけるとみへはんべれ。現在げんざいには正像せいざう二千年にせんねんはさてをきぬ。末法まつぽうに入いつては、此こゝろの日本国にっぽんこくには当時たうじは日蓮にちれん一人ひとりみへ候か。昔むかしの悪王あくおうの御時ごとき、多くの聖僧せいそうの難がたに値あひ候まちひけるには、又また所しよ從じゆ眷屬けんじよく等らう・弟子でし檀那だんな等らういくそばそばくかなげき候まちひけんと、今いまをもちてをしはかり候。今日けふ蓮法華經れんほふけ一部いっぶよみて候。一句いっく・一偈いっけに猶なほ受記じゆぢをかほれり。何なんに況いはんや一部いっぶをやと、いよいよたのもし。但たゞをほけなく国土こくどまでとこそ、をもひて候へども、我われと用もちひられぬ世よなれば力ちから及およばず。しげきゆへにとゞめ候まちひ了しまぬ。

文永八年辛未十月五日

日蓮花押

大田左衛門尉殿

蘇谷入道殿

金原法橋御房

御返事